

## ドイツでブームの「バルコニー発電」

### ◆ドイツでバルコニー発電の導入が進み、辞書にも新語として収録

太陽光発電システムの導入には、大型のソーラーパークから公共施設や社屋、一般住宅の屋根に設置するものまで多様な形態があるが、今ドイツでブームになっているのが、ベランダに設置するタイプの太陽光発電システムだ。太陽光パネル2枚程度とインバーターがセットになり、そのままソケットにつないで自宅で利用できる。蓄電池を併用することも可能だ。ドイツ語の代表的な辞書Dudenは、2024年の新語として、ChatGPTやUkrainekrieg(ウクライナ戦争)などと共に、[Balkonkraftwerk\(バルコニー発電\)](#)を収録したと発表した。

### ◆規制緩和と手ごろな価格を背景に、集合住宅の住人がバルコニーに設置

なぜここにきてバルコニー発電がドイツで人気になっているのか。高騰する電気料金の節約のほかに、大きく3つの要因がある。1つ目は手続きが簡単になったことだ。政府はカーボンニュートラル推進のため、24年4月に[太陽光発電普及法](#)を改正した。政府のデータ登録簿 (MaStR)に[登録](#)するだけで済むようになり、専門家による設置義務もなく、個人がネットやスーパーで購入した装置を設置するだけだ。[容量の上限](#)も、これまでの600wから800wに引き上げられた。

2つ目は導入コストが下がっていることだ。蓄電池とセットでも1,000ユーロ(約16万円)程度からあり、蓄電池なしだと数百ユーロだ。国による補助金はなく、自治体によっては補助制度があるが、政府は「補助金がなくとも元が取れる」と言っている。モジュールの向きや日陰の程度などから、どれだけ年間電気料金を節約できるか、[シミュレーション](#)ができるサイトも公開されている。

3つ目は、戸建てのように屋根への設置ができなかったアパートなど集合住宅の住人による設置が進んでいることだ。早ければ10月から借家人が家主の許可を得なくとも設置が可能になる予定であることも、普及に拍車をかけている。

欧州ではコロナ禍の間、外出が厳しく制限された。集合住宅の住人は、バルコニー越しに隣人と会話を楽しみ、バルコニーをリビング代わりにした。バルコニーの可能性に人々が気づいたことも、拡大を後押ししたようだ。【赤山英子】